

令和元年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立土岐商業高等学校

学校番号 48

I 自己評価

1 学校教育目標 (略「学校経営」参照)

2 評価する領域・分野	教務部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導で「家庭学習の習慣が身に付いている」かどうかは「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答された保護者及び生徒は66%にとどまっている。昨年度よりは増えているが、家庭学習が習慣化されていないのが現状である。 ・「資格取得のための指導がきめ細かく行われている」の問いに、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と89%の保護者、90%の生徒が回答している。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に活動する生徒の育成。 生徒参加型授業とICT機器を活用した授業の研究。 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・教科会や科目担当で授業研究に務める。 ・教務部、生徒指導部、商業部の連携を図る。 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> (1) 生徒の実態把握と分析。 生徒に対し授業アンケートをとるとともに、家庭学習調査を実施。 (2) すべての教員が生徒参加型の授業やICT機器を利用した研究授業を実施。 (3) 授業参観による授業改善。 (4) 研究授業実施後、授業アンケートを実施し検証。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 普段の授業に対する生徒の意識を把握するとともに、家庭での学習時間を確認する。 (2) 授業者は生徒参加型の授業を意識した授業や、ICT機器を利用した研究授業を実施する。 (3) 参観者が感想を授業者に伝える。 (4) 授業アンケートの結果について検証するとともに、各教科会で交流する。 	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・年4回の定期考査前2週間の家庭学習調査を実施した。結果を受けて、課題提出や課題の確認作業の見直しを図った。 ・11月11～15日に授業研究週間を設け、全教員が生徒参加型の授業やICT機器を利用した研究授業を実施した。また、週間中、他の教員の授業を参観した。 ・授業後の生徒に対するアンケートの結果をもとに、教科ごとの取り組みや改善などについてまとめ反省職員会議で報告した。 	<ul style="list-style-type: none"> ①実態把握後、課題提出や課題の確認作業の改善ができたか。 ②生徒参加型を意識した授業やICT機器を活用した研究授業を実施し参観記録を受け取る。 ③授業の振り返りをおこなった。 	<ul style="list-style-type: none"> A (B) C D (A) B C D A (B) C D
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒が主体的に自分で考えて行動することで、コミュニケーション能力も高まり、学習意欲の向上に繋がった。生徒の家庭学習に対する実態調査では若干ではあるが家庭学習時間も増えている。授業や行事を工夫することが大切であることを確認することができた。各教科で理解度を高めるために主体的な活動を取り入れることを検討したい。また、ICT機器を活用した授業や授業コンテンツ作成及び共有について研究しなければならない。 ○ 本校の学習が生徒にとって魅力的であり、将来の目標達成に対して効果的な実践を行っていることを地域や中学生に紹介し、ますます生徒が自信を持って学習できる環境を作っていきたい。これからは教職員の共通認識と、情報の共有を図りたい。 	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の平均時間は増えてはいるが、習慣化させるためにも、授業の復習になる取り組みやすいレベルの宿題の提示を心掛け、宿題をやり切らせる指導を加え、今後も根気強く生徒に働きかける必要がある。特に3年生が進路決定後も意欲的に取り組むよう指導していかななくてはならない。 ・生徒の活動を取り入れた授業内容について、教員個人の工夫に留まっているので、教科で共有化して活用できるようにしたい。 	

総合評価

A (B) C D